

- 年頭のご挨拶 ..... 1
- 臨時国会で質問 ..... 2
- ホームページ紹介
- お知らせ
- 編集後記

## Shin-ya新聞

発行日  
平成17年1月20日

発行  
足立信也事務所  
広報委員会  
〒870-0039  
大分市春日5-26  
TEL (097) 573-3355  
FAX (097) 573-3358

『足立信也と安心な日本を創る会』 <http://www.adachishinya.com> E-mail: [info@adachishinya.com](mailto:info@adachishinya.com)

## 年頭のご挨拶



明けましておめでとうございます。皆様方には輝かしい2005年平成17年の新春をお迎えになりましたことと拝察いたします。旧年中に賜りました皆様方のご厚情に對し改めて御礼申し上げます。

集會、講演會、委員會、勉強會等さまざまな場で政界・会派にかかわらず、多くの方が私の発言に耳を傾けてくださっていると感じます。現場を基礎に何とかしたいという気持ちの伝わるのでしようか。私の選択は間違っていないと改めて実感しています。

臨時国会を経験して感じますことは、どのような場においてもビジョンを示すことの大切さです。テレビ中継を意識するあまり、戦いの構図をとらうとする、確かにそのほうが視聴者は喜ぶといわれます。しかし、戦う意思のないものを相手に失言を期待しても何も生まれません。その先へ行けば、イエスかノーだけ答えてくれとまるで法廷尋問でも見るような戦いに終始してしまふのではないでしようか。まじめに答えないと自分は負けている、と思われることが大切です。外交と内政・外交は各論の勝負、内政は総論の勝負だと私は思います。内政における総論とはどのような国にしたいか、という想いです。政治をお上からの利益の分配、といまだに勘違いをしている人がまだ多いと感じられます。もう10年やっている少子化対策・エンゼルプランで少子化は改善されたでしようか、国内総生産は減

り、国と地方の長期債務は増え、自殺者は増え、若者はフリーターどころか、教育も訓練も就職もしない者が増えている、株価が下がって当然ではないでしようか。この国には活力がないと思われているのです。

社会状態や経済発展が順調であれば生活が安定し、将来への展望が明るければ子供を育てる意欲が強くなります。少子化を止めるには、家計を潤す経済的な支援、育児に専念できる休暇の制度、育児と仕事を両立させる保育サービスの確立が必要で、そのためには教育・保育・医療・介護などの社会サービス分野への人材の大量投入が必要です。今の体制では既得権益に縛られ、思い切った改革ができません。既得権益にぶら下がる政治家や官僚や大企業は、あのバブルの頃の夢もついでと思っているだけです。時代は変わっているのです。

時代は変わっているのです。日本は憲法の前文にあるように国際社会への貢献のためには何が必要かを考えて世界をリードしなければならぬ、国内では一人一人の命を大切に、子供を愛し、老人を敬い、皆が助け合っていく社会を築かなければなりません。

大分の皆さんは昨年、勇気ある一歩を踏み出し、将来に期待を抱いてくださいました。どうかその気持ちを持ち続けてください。小さな帳尻あわせでは国の再生はできません。

さて、私は今年年男です。大分県内各地で「6年間あるからゆつくりやればいい」とよく言われますが、私にとっては勝負の年です。大分、東京で、つくばで信頼を勝ち得なければなりません。信頼の積み重ねが強い組織を作ると信じています。皆様の更なる御支援を是非ともよろしくお願いいたします。

さらに、私は昨年11月に民主党大分県連の特

別代表に就任いたしました。民主党にはさまざまな立場の人意の人がおられます。この日本の縮図のようであると思います。だからこそ、民主党が一本筋を通して軸がぶれないことを示さなければなりません。それはただひたすら国民のためにということです。今、国民に目に向いていないのは腐敗した権力ではないでしようか。局益のみを追及する官僚ではないでしようか。甘い言葉に惑わされてはいけません。これらを一気解決する手段は一つしかありません。我々にはわかりやすい政治を目指し、皆様方にメッセージを送り続けたいと思います。

終わりに、皆様方のこの1年のご多幸をお祈りいたしまして年頭のご挨拶いたします。

参議院議員 医学博士  
足立信也



平成16年12月18日 犬飼バイパス開通式テープカットにて (左から3番目)

## 臨時国会で質問

(2004年10月12日～2004年12月3日)

### ■厚生労働委員会

(2004年11月4日)



まず、社会保障制度改革全体のあり方について尾辻厚生労働大臣に対し質問した。なぜなら小泉総理大臣が声高に発する「社会保障の一体的改革」という言葉とは裏腹に、相互に関連なく場当たり的に進む年金、介護、福祉医療など諸改革のあり方に疑問を感じていたからだ。しかし、大臣の回答は、政府の行う改革には統一した理念もなく、有機的関連性を欠いていることを裏付けるような内容であり、足立の持論である「統合された社会保障改革」の必要性を喚起する結果となった。

次に、少子化が深刻な社会問題となる中で、子供を望まない夫婦に対し援助をするのが国の役目であるとの信念に基づき、不妊治療に健康保険を適用すべきであると主張し、衛藤副大臣から前向きな答弁を得た。

介護保険制度に関しては、介護が必要かどうか、あるいはどの程度の介護が必要かを判断する「要介護認定」について質問した。要介護認定は、約8割の質問項目に対する回答をコンピューター処理して結果を出す「一次判定」で大方が決まる。しかし、明らかに症状が重い方が、判定結果が軽くなるなどの「逆転現象」が見られ、介護現場や専門家の間で

は問題視されていた。この問題は制度の根幹に関わり非常に重要であるにもかかわらず、一般に議論されることはなく、今回の制度改革でも見落されたい。足立はこの点を指摘し、コンピューターソフトの修正を求め、厚労省側も適正なものにしていく努力の必要性を認めた。

あん摩・マッサージ・指圧、鍼灸を行うためには、3年間専門の学校に通った後、試験に合格し国家資格を取る必要がある。しかし、実際には、巷では無資格者によるマッサージが横行している。足立はこの点について指摘をし、有資格者を保護するための法的な方法も提案した。厚労省側も検討することを約束した。

### ■厚生労働委員会

(2004年11月25日)

臨床検査技師が、医師の指導監督を受けずに超音波検査などの検査を行えるようにする法案が出されていることについて注意喚起を行った。自身の臨床医としての経験から臨床検査技師の技量は医師と共に検討を重ね追求していく中で磨かれる点を主張した。この法案が通れば、臨床検査技師の地位は向上し医師の負担は軽減されるが、検査そのものの質は落ち、患者にとってマイナスとなり、技師自らの成長をも阻害する点を指摘した。

次に、全国を家庭裁判所から精神科医が撤退している問題に触れ、少年や家庭の問題を取り扱う家庭裁判所では、精神科医の役割がますます重大になってきており早急に対処

すべきと訴え、法務省や厚生労働省からも同意を得た。

治療が長期に渡る病氣や難病にかかった子供達の医療費を補助する制度が法制化されることに伴い、審査を受けて重症度基準に満たない場合は補助が受けられないこととなった。この点は患者にとって非常に切実な問題であり、公正や慎重を期するため不服立てを受理する仕組みを作るべきと強く訴えた。

### ■災害対策特別委員会

(2004年11月10日)

風水害対策を議題にして、被災した豊岡市の市長、災害対策の専門家、ボランティア団体のリーダーを招き、避難を呼びかける情報の適切な出し方や、避難所の指定の仕方、ボランティアのコーディネートなどについて議論した。

## ホームページ紹介

支援者の方々には長い間、大変不自由をかけました。足立信也のホームページがリニューアルしました。足立の好きなオレンジを基調として大変見やすくなりました。



<http://www.adachishinya.com/>

ホームページでは皆様と意見交換できるコーナーを開設しています。これからは信也も新聞、ホームページを通じて足立の活動を報告させていただきます。

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。さて、今年の干支は「酉（き）のとおり」です。昨年は「甲申」で、この「甲」は寒さで殻を破っていった樹木の芽が殻を破って頭を出した象形文字でした。今年の「乙」はその芽が伸びようとするが伸び悩む芽が曲がりくねっていることを表し、「酉」は酒を醸す材料の麹が壺の中にあり発酵する象形文字です。これは、新しい改革創造の歩みを進めるけど、まだまだ外界の抵抗力が強いことを意味しており、今年1年を厳しい年になりそうです。「足立信也」は頑張りますので、今年もよろしく願います。(編集委員長)

## お知らせ

### 個人会員募集

個人会員を募集しています。(年会費 ¥5,000) 事務所の運営費・Shin-ya新聞の発行費・集金費等に充てます。皆様の入会をお待ちしています。  
※ホームページから加入手続きが出来るようになりました。

### ミニ集会(見て聞いて知っちゃくれ)開催のお願い

足立信也を知っていただくためのミニ集会を計画しています。少人数でもかまいません、ご協力いただける方は、大分事務所(097-573-3355)までご連絡ください。